

表2 シーイング毎の観測可能日の割合  
(パップ他, 1978)

場 所	観測され た最良の シーイン グ	観測可能日の割合(%)			測定 総 日数
		<1% %	1%~2% %	>2% %	
カワルール	0%5	24.7	53.8	21.6	795
セロトロロ	0%7	24	54	22	509
ジュニペロ・セラ	0%5	26	51	23	558
キットピーク	0%75	15	46	39	253
カナリー島		50	39	11	38

## 5. インド天体物理学研究所

バンガロール市の南はずれにあるインド天体物理学研究所 (IIA) はインドの天体物理学の研究センターとして 1970 年代はじめに創設され、バンガロール市に本部と光学ショップをおく。付属施設はコダイカナル天文台、カワルール天文台およびグリビダヌル電波観測所である。本部の研究スタッフはパップ所長、パタチャリヤ教授以下総勢 37 名、そのほか技官、事務官を含めると相当の数になる。広い通りに面した正門を入るとパップ所長の肝入りで造られた美しいバラ園が訪問者を迎えてくれる。平行する建物の前列が本部研究棟、後列が光学ショップとゲストハウスである。現在、研究棟の拡張が二つの建物の間で進行している。

パップ教授の案内で図書室、計算室、光学ショップなど主な個所を見学し、また、スタッフの研究室もいくつかお訪ねする。光学ショップでは 234 cm 主鏡の研磨が進行中である。まだ機械削りの段階であるが、研磨精度はようやく 1 波長程度まで到達したところである。今年中に研磨を仕上げ、来年にはカワルールに運んで試験観測にまでもっていききたいというのが技術スタッフの意気込みである。

パップ教授の研究室でしばらく懇談する。まず、1984



図7 バンガロールのインド天体物理学研究所正門より本館を望む

年に京都で開催予定の第3回アジア太平洋地域天文学集会について集会の研究組織委員長をお願いし、快く引き受けていただく。それに関連して集会のあり方、もち方、また、アジア太平洋地域での天文学交流のすすめ方などに話題がひろがる。ともあれ、これで私のインド訪問の目的の一つが達せられ急に気持が軽くなる。なお、1985年にインドで開催される IAU 第19回総会についてはバンガロール市での開催準備がすでに始まっているとのことであった。

この日の午後はコロキウムが開かれる。冒頭でパップ教授は日本の天文学の現状についてかなり詳しい紹介をされたあと、今回の私の訪問を一つの機会にインドと日本との交流がさらに発展するよう希望を述べられる。私もスライドで日本の紹介を補足し、また、「小型電離領域の表面測光について」という表題で、木曾シュミット望遠鏡による HII 領域の解析結果について京都・金沢グループの仕事を中心に報告する。コロキウムには約 40 人の出席があり、電離領域の構造と進化について話題ははずんだ。

夕食後、プラブ博士とスネトラ嬢が宿舎に訪ねて来る。宿舎にはインド天文学会長のアビヤンカ教授夫妻もおられ、2人で歓談する。まじめな天文学の話からタミール語、カナティカ語の話、インド料理からヒンズー教の神々の話まで、尽きない話題にインド滞在最後の夜を楽しんだのであった。

最後に、パップ教授、プラブ博士、そしてラマニ氏に深甚の謝意を表して筆をおきたい。

## お知らせ

### 第15回日本アマチュア天文研究発表大会

日本アマチュア天文研究発表大会運営委員会

日時：昭和57年10月17日(日) 10時~17時

会場：三井アーバンホテル

福岡市博多駅前2丁目 8-15

TEL (092) 451-5111

発表希望者は9月10日までに概要を200字程度にまとめて所属団体、住所、氏名、年令、TELを記して申込み下さい。

〒810 福岡市中央区舞鶴2丁目 5-27

福岡市少年文化会館プラネタリウム内

福岡天文協会アマ天係

香月美砂子宛

TEL (092) 771-8861